

## ジェンダー開発指数（すぐに役立つ開発指標の話 第10回）

著者	野上 裕生
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	181
ページ	46-47
発行年	2010-10
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004406">http://hdl.handle.net/2344/00004406</a>

# ジェンダー開発指数 Gender-related Development Index: GDI

野上裕生

人間中心の開発という意味の「人間開発」を提案した国連開発計画の『人間開発報告書』は、人間の福祉の到達度を示す人間開発指数 (Human Development Index: HDI) を提案して、大きな反響を呼んだ。しかしHDIには男女不平等 (ジェンダー不平等) が反映されていない、という批判があった。そこで『人間開発報告書1995』は「人間開発」という理念に沿ってジェンダー不平等を調整した上で人間の福祉の到達度を示す「ジェンダー開発指数」(Gender-related Development Index: GDI) と「ジェンダー・エンパワーメント測定」(Gender Empowerment Measure: GEM) を提案した。

●ジェンダーと統計

一般に労働力調査や事業所調査は非正規 (インフォーマル部

門) よりも正規の経済活動を捉える傾向が強いので、非正規の領域で重要な女性の経済活動が過小評価される傾向が強かった。このような問題を是正して女性の状況や役割を認識できるように統計と統計活動の再検討が始まったのは一九七五年 (国際女性年) の国際女性年世界会議 (メキシコシティ) 以降である。一九七六年から一九八五年までの一〇年間 (国連女性の一〇年: 平等・開発・平和) には国連統計局や、一九七九年に設立された国際連合国際女性問題調査訓練研究所 (United Nations International Research and Training Institute for the Advancement of Women、略称INSTRAW) などが中心になり、統計指標の見直しが進められた。『人間開発報告書1995』のGDIやGEMは一九七〇年代以降の「ジェン

ダーと統計」に関する作業の成果を踏まえたものであった。

●GDIとGEMの作成方法

GDIは知識、健康、所得の分野でジェンダー格差の損失を考慮した上で人間開発の到達度を示す開発指標である (「基本公式」参照)。GEMは議会や管理経営職のジェンダー比率と所得のジェンダー・シェアをGDIのように指標化して平均したものである。表1は先進国のGDIとGEMを、また表2は「ジェンダーと開発」の領域で

注目されることの多い南アジアのGDIとGEMを示したものである (『人間開発報告書2009』の資料166)。

●GDIとGEMの問題点

GDIやGEMの問題点として、次のような点が指摘されている。  
(1) GDIは男女別分配所得シェアの格差を調整しているが、所得の男女格差だけでなく家計内の資源配分も考慮しないと実際の消費水準の男女格差はわからない。女性に収入があっても、

基本公式

教育、所得、健康の男女不平等を調整した到達度を求めて平均したものがGDIである。教育、健康 (平均余命)、所得の元データは(実績値-最小値)/(最大値-最小値)という公式によって0から1の間の値をとる指数に直す。最大値と最小値は平均余命の場合、女性が87.5歳と27.5歳、男性が82.5歳と22.5歳である。所得指数は (1) 購買力平価表示のGDPを求める、(2) 非農業部門の男女別賃金比率で経済全体の労働所得の男女比率を決定した上で男女の労働力人口を掛けて男女の労働所得分配シェアを求める、(3) この労働所得の男女分配シェアから男女別一人当たりGDPを求めて、所得指数を求める。男女不平等の調整の方法は、教育の到達度指標を例にすると、以下のようになる。

$$Xe = (pf(Xf))^{1-e} + pm(Xm)^{1-e}$$

ここでpfとpmは女性と男性の人口シェア、XfとXmは女性と男性の教育到達度の指標で、2/3 (成人識字率) + 1/3 (就学率) で求められる。eは不平等回避度である。eが0の時にXeは男女の教育到達度の平均と等しくなるが、eが大きくなるにしたがって、男女の格差の損失が大きく評価され、教育到達度は低い値をとる。GDIとGEMではeは2に定められている。

表1 先進国のGDIとGEM

HDI順位	国名	GDI順位	GDI(2007年)	GEM順位	GEM
1	ノルウェー	2	0.961	2	0.906
2	オーストラリア	1	0.966	7	0.870
3	アイスランド	3	0.959	8	0.859
4	カナダ	4	0.959	12	0.830
5	アイルランド	10	0.948	22	0.722
6	オランダ	7	0.954	5	0.882
7	スウェーデン	5	0.956	1	0.909
8	フランス	6	0.956	17	0.779
9	スイス	13	0.946	13	0.822
10	日本	14	0.945	57	0.567

表2 南アジアのGDIとGEM

HDI順位	国名	GDI順位	GDI(2007年)	GEM順位	GEM
102	スリランカ	83	0.756	98	0.389
132	ブータン	113	0.605		
134	インド	114	0.594		
141	パキスタン	124	0.532	99	0.386
144	ネパール	119	0.545	83	0.486
146	バングラデシュ	123	0.536	108	0.264

(注) HDIは182か国中の順位、GDIは155か国中の順位、GEM109か国中の順位。  
(出所) UNDP [2009] *Human Development Report 2009*, New York: UNDP.

それを女性がどの程度まで自由に使えるかはわからない。  
(2)貨幣的報酬としての所得格差を取り上げても、女性が関わることの多い貨幣的報酬を伴わない労働(たとえば家庭内の労働)は視野に入らない。  
(3)男女の労働所得格差を非農業賃金の男女比率で評価しているが、途上国の農業・インフォーマル部門・家族企業での男女賃金格差は十分に評価できない。  
(4)GEMは女性の議員比率、専

門職・技術職の男女比率、男女別収入を評価変数にして、社会的・経済的に高い地位で活躍する女性の割合から女性のエンパワメントを測ろうとしている。しかしGEMは富裕層の女性に焦点を当てたもので、大多数の途上国の女性の日常生活とは離れた指標である。

● GDIとGEMの反響

様々な問題点はあるものの、GDIとGEMは「ジェンダー

と開発」の重要性を知らせる上で重要な役割を果たしてきた。日本では、表1にあるように、先進国の中で日本の実績が特に低いGEMが取り上げられることが多い。『人間開発報告書2005』は、ジェンダー不平等は所得水準とは無関係であるとして、どのような所得水準でもジェンダー平等は達成できると述べ、ジェンダー平等の必要性を訴えている。

(のがみ ひろき/アジア経済研究所開発研究センター)

《参考文献》

GDIとGEMの基本的な考え方はUNDP [1995] *Human Development Report 1995*, New York: UNDPが基本文献である。「ジェンダーと統計」の歴史的な流れは、法政大学日本統計研究所・伊藤陽一編著「一九九四」『女性と統計—ジェンダー統計論序説』梓出版社を参照した。GDIやGEMの簡単な紹介は野上裕生「二〇〇四」『人間開発とジェンダー』朽木昭文・野上裕生・山形辰史編『テキストブック 開発経済学「新版」』、有斐閣

二九一—三二八ページ。GDIやGEMの問題点の解説は、Bardhan, K. and S. Kasen [1999] “UNDP’s Gender-Related Indices: A Critical Review”, *World Development*, Vol.27, No. 6, pp. 985-1010。および、上山美香・黒崎卓「二〇〇四」『ジェンダーと貧困』絵所秀紀・穂坂光彦・野上裕生編『貧困と開発』日本評論社、一一九—一三七ページが詳しい。

Crafts, N. F. R. [1997] “Some Dimensions of the ‘quality of life’ during the British industrial revolution”, *Economic History Review*, Volume 4, No.4, November, pp.617-639。イギリス産業革命期(1760-1850)のGDIを作成し、近代経済成長と生活水準との関係を分析している。